

講義名	社会調査の基礎					授業形態	
担当教員	栗田 真樹	開講期・曜日・時限		後期 木曜日 2 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード	SOC150

主題と概要
社会科学は理論的な研究だけでなく、「現実」の社会を取り扱っているわけであるから、「実証的」な研究によって裏証され、その知見は「実践的」に役立てられなければならない。情報化社会と呼ばれる現代社会においては、情報を収集するためにさまざまな調査が行われているが、科学的に行われる調査は非常に少ない。この授業においては、実証的な研究方法である社会調査について、その意義と諸類型に関する基本的事項についてとりあげ、科学的な社会調査の基礎を修得することを目的とする。

到達目標
・基礎的な社会調査の考え方や諸方法を理解する。 ・データ解析の基礎を修得する。 ・現実の社会現象を觀察し、自分なりの仮説を立てることができるようになる。 ・データから知見を読み取ることができるようになる。

提出課題
平常期は、授業において配布する教材による学習に基づいて、毎回課題を提出する必要がある。特段の理由がない限り、これらをまとめて提出することはできない。授業への出席、課題の提出がない場合は平常点が低くなるので注意すること。 課題提出はキャンパスクロス、Respon等のクリッカー、MicrosoftTeams、MicrosoftFormsを予定している。それぞれの設定や使用の詳細は授業で解説する。 学期の中間期にレポート試験、学期末に筆記試験を予定している。詳細は授業内で指示する。 なお、明らかにコピー＆ペーストによる課題提出は関与した全員を0点としたうえで、処分の対象とする場合があるので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
授業内で講評・解説する。

評価の基準
平常点（講義内課題）、中間レポート試験、期末試験により総合的に評価する。 1．授業中：講義内課題等 40% 2．中間期：レポート試験（理解度確認試験：記述式） 20% 3．期末期：筆記試験（記述式） 40%

履修にあたっての注意・助言他
「社会調査士」科目であるので「社会調査」に興味心があり、積極的に学習しようという意欲のある学生の履修を希望する。 なお、毎回、授業内で課題提出、復習（復習シート）の提出を求める。課題の提出等に不備がある場合が多いので注意すること。 課題・レポート等で他者の解答やホームページのコピー＆ペーストが発覚した場合には然るべく処断する。

教科書					
・『最新・社会調査へのアプローチ』・	大谷信介ほか	ミネルヴァ書房	2013	2750	462309524X

参考図書				
なし。				

その他
随時紹介、指示する。そのほか担当者作成の教材（PDF等）を配布する。

授業計画
1 社会調査の目的と社会調査士制度 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 2 社会調査の歴史 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 3 調査の倫理 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 4 さまざまな調査方法、統計的調査と事例研究法 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 5 質問紙調査法 1（調査の設計、調査の手順：仮説構成、質問紙の構成） 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 6 質問紙調査法 2（調査の手順：質問項目の設計、質問文と回答の作成） 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 7 フィールドワーク 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 8 実験的方法、内容分析 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 9 国勢調査と官庁統計 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 10 学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチ 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 11 社会調査データアーカイブ 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 12 量的データと質的データ 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 13 社会調査データ解析の基礎（単集計） 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 14 社会調査データ解析の基礎 2（二変数間関係分析） 予習：事前配布プリントによる学習（2時間） 復習：授業内容の学習（2時間） 15 データ解析に基づく実践

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
・社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。 ・統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。 以上の学部のディプロマポリシーを達成するため社会調査の基礎的・専門的知識を提供し、実践的に活用できる能力を修得します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
教材はキャンパスクロスでもPDF等で配布する。 毎回Respon等のクリッカーで課題の提出を求める。 これらはスマートフォンで対応できることを基本とする。 アプリとしてはMicrosoft Teams（ビデオ会議等）、Forms（質問紙回答等）とRespon等のクリッカー（出席・課題等のコミュニケーション）が利用できるように設定すること。これらについては授業で解説指示する。 。

実務経験の有無及び活用
各種社会調査の実務経験あり。担当者は「専門社会調査士」資格を保有している。

備考
課題の提出を「毎回」求める。まとめて学習、提出することはできない。これらが欠けている場合、「平常点」が低くなるので注意すること。